

金融組合と殖産契に関する研究

崔元喆*

目 次

I. 序 論	IV. 殖産契の 設立状況
II. 金融組合と 殖産契	V. 殖産契と 食糧供出
III. 朝鮮兵站基地と 殖産契	VI. 結 論

I. 序 論

1932年総督府の農村振興運動が開始され、その翌年1933年金融組合連合会が創設され、組合運動と農村振興運動のさなかの1935年8月30日殖産契令の公布に基づいて殖産契が正式に設立された。朝鮮金融組合運動も新段階を迎えたと言えよう。つまり、金融組合の運動はこの機会に金融組合の組合員を何とか増員させなければならない課題をかかえていた。朝鮮総督府としては、組合降下運動の最中で、様々な問題を起こしていた朝鮮農村の最末端の農民を朝鮮の最前線で日本資本主義の国策遂行機関である金融組合に如何に組み込むかが最大の課題であった。この最末端にいる小作人たちを金融組合に吸収することが日本資本主義の植民地統治の危機を克服することであったからである。朝鮮総督府としても、総督府あるいは朝鮮金融組合連合会が、なかなか手が届かない農村の最末端で絶えず展開されていた小作争議で頭を悩ましていた。農村地域に位置していた金融組合もこの点についてはなす術を知らなかった。又、総督府は不安定な時局情勢の最中の大陸での戦争に備えるためにも、殖産契を設立することによって、都市と農村の間に荷物運送手段を作り出そうとした。例えば最前線に穀物を必要とすれば、村々に設置されていた殖産契を通じて必要な場所に早速集荷して素早く

* 経済學科 副教授

戦地に運送することが出来る利点を考えたのである。このように最末端の小農を国策遂行の方向に添って体制内に包容することが植民地統治の成敗にかかる重要な問題であったため、従来信用を受けることができなかった個人に信用を与えて体制内に組み込むために、殖産契が設立されたのである(1)。

前述したように 1935年 8月 30日 殖産契令の公布に基づいて 殖産契が正式に設立されたのである。所謂、金融組合運動の新しい段階に入ったとも言えるのである。このように 朝鮮農村地域で金融組合の細胞組織を構築する、という意味においての殖産契は非常に重要な意義を持つのであった。

本稿においては、朝鮮における 殖産契の機能と役割はいかなるものであったか等を探って見ることとする。

II. 金融組合と 殖産契

1) 殖産契令の狙い

殖産契が出来る以前は、小作人等は実際に組合の出資金を払えない関係上金融組合に入ることが出来なかった。かりに、金融組合に入ったとしても担保能力のない彼らにとって、金融組合を利用することは極めて困難であった。金融組合としてもこのような貧しい小農に貸出しでも、貸出金の回収が困難であると判断していたので、これらの貧困層の接近を拒んだのである。それよりも彼らは植民地統治者から見れば全く信用のない者であったが故に相手にする対象ではなかったのである。しかしながら、総督府としては前述したように、総督府統治に対して常に挑戦してくる者はこれらの階層であったので、このような小農を放置しておいたのでは、社会秩序を保てないし 朝鮮支配に重大な影響を与える、ということで、何としても、このような不平不満階層を日本帝國主義の国策遂行次元で大きく包容して日本帝國主義の協力分子に育て上げることが必要であった。これらの農民を体制に吸収する必要性を痛感したのである。

総督府はいろいろと工夫した末、遠い昔から韓国人に親しまれてきて、比較的抵抗が少ない相互扶助の契のような組織を作ることを思いついた。こうして、契と類似した殖産契を部落＝

1) 『金融組合十月号』(1936年) P. 96.

自然村の区域に存在する小農を以て組織させ、この組織に法人の資格を与えて、金融組合に組み込む方法を取ったのである(2)。のちに詳しくみるように、殖産契に入れば金融組合に自動的に関係できる方式が取られた。そして、殖産契の普及を図り、民衆全体を組合員ないし、それに準ずるものとして、包容して行ったのである。このような、村落地域での金融組合の細胞組織を構築するという意味においての殖産契は非常に重要な意義を持つものであった。金融組合は社会大多数の人々の経済生活と密接に関連して進んで行くようになった(3)。とくに、殖産契は他の地域の殖産契と手を取り合うことによって力を発揮していたことが注目される。つまり、殖産契というのは全朝鮮に散在した細胞組織であったので、このような組織が相互協力して力を合わせることによって、大きな力を発揮することになったのである。さらに、殖産契の仕事は殖産契自体ではやれない面があった。つまり、金融組合、あるいは産業組合に通ずる中央機関との関係においてのみ殖産契が仕事をしていく面があったのである(4)。金融組合と緊密な連繋がなければ殖産契独自では仕事が難しくなるような仕組みが存在したのである。例えば、殖産契が穀物を売る場合には、金融組合連合会において、その穀物の販売方法や需給の方法を調べて、殖産契にして、どれだけの穀物を集めてほしいかを注文する。このような連絡を受けて、殖産契は必要な穀物を集めるようになる。また、肥料購買等を朝鮮金融組合連合会がする場合は、金融組合連合会と殖産契の丁度中間に位置している金融組合が動くのである。というのは、金融組合の働きによって、各殖産契が必要な肥料が調査され、その必要量が金融組合連合会に伝わるという、仕組みになっていたのである(5)。このように、殖産契だけでは仕

2) 『金融組合』1936年7月号には次のように記している。「殖産契は法人たる資格に於きまして個人組合員と同様金融組合に加入し、その必要とする資金の融通を受けるのであります。将来殖産契が発達いたしますすれば一の金融組合の下に幾多の契が出来るのであります。金融組合の理事者は之等の各の契の監事となりましてその事業を組合に於て指導し世話することになるのであります」P. 50.

3) 「物の集荷配給網としての殖産契」(『金融組合』7月号, 1938年) P. 18

4) 朝鮮金融組合連合会会長「殖産契制度の沿革」(『金融組合』10月号, 1938年) P. 96.

5) 同上書 P. 16.

事にならなかったし、金融組合及び金融組合連合会と連繋してこそ順調に機能するようになっていた。つまり、金融組合連合会・金融組合・殖産契は三位一体になって、お互いに緊密な連繋を取りながら仕事を進めるようになっていたのである。特に、ここで末端の殖産契に対しては、金融組合及び金融組合連合会の厳しい監視の目が光っていたのである。

Ⅲ. 朝鮮兵站基地と殖産契

殖産契、即ち金融組合と国策遂行との関係については次のように述べられている。「この際金融組合におきまして団体組織として朝鮮に於ける最もよく訓練された関係におきまして、既に半島住民の半数を占めてをる我々の組織におきまして、この組織が斯様な国策に早くから順応してやって行きますのと、然らざるとの結果はそこに非常な相違があると思ふのであります。故にこの有機的有力なる団体を総動員致しまして、国家の要求する所の諸問題に付きまして全力を挙げてこれに協力したいと思ふのであります」(6)。国策遂行機関である金融組合及び殖産契は、戦時状態で、国家が要求する諸問題について、全面的に協力する、ということを経営に語っている。従って、金融組合及び殖産契が国策遂行に寄与する面で如何に大事な組織であったか、ということを物語るのである。こうして全朝鮮的にわたって包括的な網の目が張りめぐらされる殖産契が設立されるようになり、それは金融組合の細胞組織と言われていた(7)。又、他方では殖産契を利用して戦時物資輸送のための物資運送網を構築しようとする狙いがあったのである。「朝鮮金融機関発達史」と題する1940年刊の書物なかで高杉東峰氏は次のように述べている「大陸前進兵站基地朝鮮に於ける集荷配給組織の確立は、時局下の急務であるが、組合は、組合員並びに殖産契のために、その必要とする農業用必需品及経済用品の共同購入斡旋、並に生産物の共同販売斡旋をなしてゐる。殖産契の拡充に伴ひ、農村の集荷配給に対する金組の機能は金融部門と並行して、組合員経済の向上を資するところ、いよいよ大なる

6) 「家族全部の人を我々は組合員と実質的に考えて行くべきもの」『金融組合』七月号(1938年)P. 20

7) 「金融組合20号」(1930年)P. 3.

らんとしてゐる。購買業の斡旋も、金融事業と同様、朝金連の統制下に、専断的に遂行されてゐる」(8)。つまり、朝鮮兵站基地と殖産契の設立は深い関連があつたのである。朝鮮兵站基地である朝鮮における集荷配給組織の確立は、時局下の急務である、ということは何を意味するか、現下の日中戦争の遂行のために農村と都市を連結する物資供給網の重要性を力説しているのである。殖産契設立によって、全朝鮮に渡る物資流通機構が確立されつつあつたことを物語る。例えば、食糧を戦地に輸送するにしても、殖産契を利用しなければ到底出来るものではない。殖産契及び金融組合連合会のルートを通じてこそ、農村の最末端地域から目的地まで素早く運べる仕組みになつていたのである。従つて、いざという緊急な時に農村で生産した穀物及び軍需品等を戦地に輸送する時は殖産契網を最大に利用したのである。「金融組合」1938年7月号にはこのように述べた記事がある。「時局柄わが半島は兵站基地として極めて重要な地位に立ってゐるのでありますが、之に對する生産力の拡充と相結んで各地方に於ける生産物の集荷乃至中央市場より各地方に對する資材の配給に関する組織の確立は一日も忽になすことを許さない緊要事であります。之が為には殖産契網の完成を基礎的要件と致しまするし、之に依つて同時に亦生産力の拡充の成果を遺憾なく發揮して時局經濟に寄與し得るものと思ふのであります」(9)。要するに、朝鮮兵站基地の生産物流通関係を円満に、その目的を達成するためには、殖産契網の完成を要件としており、それによつて生産力の拡大も成し遂げて、時局經濟に貢献出来る、ということである。

又、朝鮮金融組合連合会の会長、松本誠は『金融組合』1939年1月号で次のように述べている。「支那事変下第二年の年頭に立って今更の如く時局の重大性を痛感するものである。戦地にある皇軍は遺憾なく其の武勇をを發揮して至る所赫々たる武勲を挙げられ、今や支那大陸に於ける重要據點の大半は皇軍の占據する所となり事変以来の戦果は内外人等しく驚倒改服して措かない有様である」(10)。

8) 高杉東峯「朝鮮金融機関発達史」(実業タイムス社、1940年)P. 376.

9) 「集荷配給問題」(『金融組合』7月号、1938年)P. 11.

10) 金融組合連合会会長、松本誠「金融組合大衆動員の秋」『金融組合』1月号、(1939年)P. 8.

朝鮮金融組合連合会、会長が日中戦争そのものを非常に称賛しているのであるが、引き続き同連合会会長は次のようにも語っている。「今日急がなければならないことは戦時体制下に於ける農家経済の建て直し策として、又兵站基地としての任務の上から朝鮮農村に於ける集荷配給組織を一日も速に確立せしめると云ふ事である。集荷組織の単位は申す迄もなく金融組合なり又産業組合の傘下に加加入してある部落の殖産契であるが、全鮮約七万五千の部落中大約三万部落は近年内に殖産契を設置し得るとの見透しの下に金融組合に於ては昭和十三年度以降五ヶ年を期し殖産契増設計画を樹立し努力中なのであるが、而もその実践が遅々として進まないこと云ふことは時局の前途に照らし寒心に堪えない所である。殖産契組織が朝鮮農村に於ける経済調整の基礎的工作である。斯様に金融組合が時局下の国策に順応して行く為には人的組織体としての精神運動の問題を始めとして直接事業の上に於ても貯蓄機関として充分時局の為に機能を発揚しなければならない。更に集荷配給の役割を荷負ふ事業機関としては速に其の組織網を完成して時局経済の動きに順応してゆかなければならんと云ふが如き諸方面の責務を感ずるのである」(11)。このように金融組合代表の発言は、金融組合員、あるいは殖産契員の幸福とか生活改善をどうすべきか、ということについては、一言も触れてないのである。彼らの頭には組合員の幸せとか、組合員生活改善等は毛頭なかったのである。どうしたら日本帝國主義の戦争遂行に積極的に協力して戦争に勝てるかが最大の関心事であり、そうせざるを得ないように上部から強いられたのである。要するに、時代は戦時体制に入っていたから、金融組合及び殖産契は、日本資本主義の国策遂行に順応していかなければならない、ということである。

朝鮮兵站基地の任務を遂行していくためには、集荷配給組織を速やかに確立することが急務であるということであるが、殖産契設置が思う通り進まないことに對して、松寸会長は一種の焦りを示しているような感じがする。殖産契設置がそれだけ遅れるようなことがあれば、戦争物資を輸送するのに困難を招くようになると考えたためである。殖産契が発展することによって、農村僻地で展開されている小作争議や反日・反帝を唱えている分子を封じ込める能力が培養されるし、

11) 同上書P. 13.

また、殖産契という細胞組織を利用して、都市と農村を結ぶ集荷配給組織網を設立することによって、戦時体制における物資輸送手段を円滑にすることが出来るのである。

松本会長は最後に、金融組合が時局下で国策に順応していくためには、人的組織体としての精神運動ができることと強調し、又、貯蓄機関としての機能を発揮することが大事である、としている。以上は、金融組合連合会の会長自ら語っているものであるから、金融組合が如何に完璧な国策遂行機関であったかが露呈されている形となったと言えよう。

1) 国民精神運動と殖産契

さらに、殖産契は銃後、つまり、日中戦争以降「聖戦完遂」を目標に国民精神総動員連盟の結成に協力するに至った。この連盟は、要するに、皇国精神を高揚させ朝鮮民衆に皇国臣民たることを自覚させ、一糸乱れずにこの精神で朝鮮民衆をまとめ、国家が要求する諸問題に全力を挙げて協力するために結成されたのである(12)。

国民精神総動員連盟は、各種団体別に結成されていたので、例えば、朝鮮連盟、道連盟、府郡連盟、進んでは各邑面部落においてまで国民精神総動員のための組織を作って、国民精神総動員の徹底化を図っていたのである。これと共に他に連盟に加入している各種団体と、国民精神総動員連盟と手を携えて緊密な連絡を取りながら協力していたのである(13)。このような各種団体に殖産契も入ったこと言うまでもない。当時、南次郎朝鮮総督も、この国民精神総動員運動に大きな期待を寄せ、次のように語っている。「我が半島が東亞情勢の流動に対して地理的中心に位置し、国防経済の重要基地として特異の国策的使命を負荷するは言を要せず、聖戦なほにして物心両面に亘る国内体制の強化に万全を期するの秋、此の地理的要位に據り、此の内鮮一体の果実に基づく雄偉勁烈なる協同興亜の大思想、大精神が我が半島より湧起して機運の先頭に進まんことは吾人の心願たると共に、また昭和十四年の時務に課せられたる命題でなければならぬ、半島民須く心意を鍛練して志向を高邁にして、以て皇国国運の大飛躍に追隨して後れざるの用意を怠るべからず、国民精神総動員運動の展開に期待する所も之である」(14)。

12) 矢崎永三郎 「金融組合の過去及将来を語る」(『金融組合』10月号、1938年 P. 20.)

13) 上掲書P. 19.

14) 朝鮮総督、南次郎「血を以て歴史を綴る」(『金融組合』新年号、1939年) P. 2.

所謂、東亞新秩序の構築において、朝鮮半島の国防・経済面で最重要基地に位置しているので、朝鮮半島を中心に国策的使命を果たさなければならず、そのためには、国内体制の強化に万全を期して内鮮一体を成し遂げ、半島官民もいよいよ心気を鍛えて、皇国国運の大飛躍に後遅れしないように頑張ること、そのためには、国民精神総動員運動が必要であることを強調している。ところが、この国民精神総動員運動に殖産契も結び付けて重要な役割を担って行くのである。この点について『金融組合』1939年1月号は、このように述べている「殊に短時日に部落連盟及愛国班を普及し、且つ強化するには如何に農村が時局の認識が深いと云っても一挙手一投足の労だけでは到底困難であります。どうしても殖産契の協力が必要であります。又、廃品の回収又は必要物資の増産をどうして行ふかは、殖産契の協力を待つものが多いであります」(15)。国民精神総動員運動の内容は無関心な農民を皇民化させ、一糸乱れぬ組織体制を築きあげ、「聖戦」に勝てるように協力させることであった。具体的には、国民精神作興、生産力の拡充、物資及び資金の調整、高物価の抑制、消費の節約、勤儉貯蓄の奨励等の物心両面にわたる総力を集中して、ひたすら戦争に勝利して行くように国策遂行に協力させて行くことが最大の目標であった。特に生産力の拡充の問題とか、消費の節約とか、貯蓄の奨励等は、金融組合及び殖産契が協力しないと出来ない仕事であった。

又、殖産契の場合の、農村振興運動の最中の組合員の増容計画に基づいて、契員は金融組合員と非組合員を含むものであったが、個人として金融組合に加入出来ない人であっても殖産契に加入することによって、金融組合の傘下に包容されることになった。こうして、金融組合は、殖産契を増設することによって、契員の増加により、朝鮮農家の全戸加入・全家指導の体制を整えていった(16)。「殖産契ハ金融組合ノ會員トナルコトヲ要ス」(17)、とあるように、殖産契員になれば自動的に金融組合の事実上の会員になったのである(18)。

15) 「伸びゆく殖産契」(『金融組合』1月号、1939年)P. 79.

16) 『朝鮮金融組合連合会十年史』(1944年)P. 59参照.

17) 『金融組合発達史の特殊性と新体制』(教育叢書第七輯、朝鮮金融組合連合会1940年)P. 36.

18) 前掲書P. 37.

このようにして朝鮮における組合運動は、殖産契—金融組合—朝鮮金融組合連合会を通じて一貫した組織形体を形成するようになった。殖産契の全部落への設置は金融組合の全戸包容を意味し、それを通じて、金融組合連合会が朝鮮の全部落を組織に吸収することを狙ったのであった。

2) 殖産契令の内容

殖産契令は全文21条からなっており、契の目的機能に関して本条文にないものは、金融組合の規定を準用することとされ、準用条文は17個条からなっていた。

殖産契令の要点は次の通りである。

- 1・殖産契は隣保共助の精神を基盤にして、契員相互間の経済の発達を図る為に共同事業を行なうことを目的とする。
- 2・殖産契は部落其他此に準ずる地域内に居住する者で組織する部落小組合として法人格を持つ。
- 3・殖産契は同一地域に居住する者5人以上が設立者になって、規約を作成して道知事の指定認可を受けて設立され、道知事の指定によって必ず金融組合に並びに産業組合の組合員になるべきこと。
- 4・殖産契には主事・副主事及び監事一人を置いて主事・副主事は契員の中で選任して監事は金融組合又は産業組合理事がこれに該当する。
- 5・殖産契員は所属金融組合あるいは産業組合に対する契の債務に連帯の責任を負う。
- 6・殖産契は道知事がこれを監督して、主事以下幹部は登記すべし(19)。

殖産契設立の場合、その村に住んでいる農民が5人以上になれば設立が可能であり道知事の認可を受けなければならないことになっていた。意外と設立は簡単な手続きであった。また、殖産契員は所属金融組合に対する契の債務に対する連帯責任を負う、ということになっているが、これは、例えば、5人のグループで殖産契を作って、この契が金融組合から貸出を受けた

19) 朴福来「韓国農業金融史」(農業協同組合中央会、1936年)P. 84.

場合、その貸出金に対して連帯責任を負う、ということである。つまり、貸出金の用途についてお互いに厳しい監視をしていたし、身辺についても相互監視の目が光ったのである。こうして、殖産契は貧農同士がお互いに厳しく監視する一役を担った。

又、殖産契は金融組合に対して一口以上の出資をしなければならなかった。殖産契が如何なる事業を行っていたかと言うと、1・生産品の販売、2・必需品の購買、3・共同施設、4・産業の指導、5・共済等であった(20)。金融組合は設立以来生産品の販売・購買事業を行ってきたが、1929年の法令改正によって、販売・購買事業が禁止されており、それが、ここに来て再び復活したのである。従って、殖産契を包摂した金融組合は、従来の信用事業だけではなく、殖産契を通じて实际的に販売・購買事業を行なうようになった。

IV. 殖産契の設立状況

朝鮮金融組合連合会は1938～1942年まで、殖産契設置5箇年計画を立てて、全朝鮮の主要部落にはほとんど設置する計画であった。言わば、5カ年計画で全朝鮮の金融区域に、およそ3万契を設置する目的で進んだのである(21)。

下記の表1に見るように、1935年殖産契設立以降年々契数が増加している。特に、1937年から飛躍的に増加するのが見られるが、これは日中戦争勃発を契機に朝鮮兵站基地の重要性がますます高まる中で、農村の末端農民を体制内に組み込むための運動の結果であった。

次に、非組合員がかなり多いことと、そして、毎年増加していることが示されている。

20) 『朝鮮金融組合連合会十年史』(前掲)P. 59.

21) 上掲書P. 59.

殖産契の設置状況は下記の通りである。

表 1 殖産契設置状況 (毎年6月末=契年度末現在)

年度末	設立組合	契 数	契 員 数	同非組合員数	個人金融組合員数
1935	金融組合	143	5,290	?	1,363,274
	産業組合	9	443	?	
1936	金融組合	1,345	55,027	12,408	1,560,162
	産業組合	28	1,243	646	
1937	金融組合	3,978	156,533	34,013	1,633,513
	産業組合	247	10,191	6,929	
1938	金融組合	8,022	305,650	68,516	1,740,035
	産業組合	380	14,752	9,877	
1939	金融組合	17,450	670,219	136,046	1,955,288
	産業組合	1,066	34,994	21,860	
1940	金融組合	26,579	1,121,448	227,774	2,145,190
	産業組合	1,836	67,133	43,009	
1941	金融組合	39,893	1,895,456	446,475	2,312,436
	産業組合	1,758	76,210	57,091	
1942	金融組合	47,083	2,492,298	587,268	2,470,137
	産業組合	896	35,437	27,235	
1943	金融組合	48,327	2,974,472	607,136	2,670,945
	産業組合	793	63,774	23,929	
1944	金融組合	48,838	3,023,553	573,679	2,815,313
	産業組合	189	7,406	5,903	

出典：朝鮮金融組合連合会10年史（日本手帳株式会社，1944年）PP. 64-65.

朴福来『韓国農業金融史』（農業協同組合中央会，1963年）P. 85.

1944年1月現在、金融組合及び殖産契の状況を見ると、金融組合は本所626、支所283、合計909の事務所を所持していたし、又、個人組合員数が318万であった、という数字もある。この数字は当時、目標総世帯数に対比すれば、およそ87%に到達しているのである。同じ1944年1月までに殖産契の場合は、総部落が5万の中で、殖産契設置部落が4万8千に及んでいた(22)。ということは全朝鮮農村部落の96%に殖産契を設置したことになる。このような状況は総督府が盛んに主張していた朝鮮農村全戸包容はほぼ達成したと言っても過言ではない。このことは、あらゆる手段と方法を選ばずに、日本資本主義の植民地統治に対する協力分子をこれだけ確保したことにもなる。このように金融組合及び殖産契の細胞網は益々広がっていたし、農村地域で大きな勢力になっていた。

金融組合連合会が1940年刊行された『金融組合発達の特異性と新体制』には次のように述べている。「ここに朝鮮の組合運動は殖産契—金融組合—朝鮮金融組合連合会を通じて一貫せる組織形態を整えたと共に、殖産契の全部落への設置は直ちに金融組合の全戸包容を意味し、延ひて朝鮮金融組合連合会は朝鮮の全部落全員とを其の組織内に包容することになるのである。而して此殖産契及金融組合の上級機関への強制加入は、単境金融組合運動の公益性に照らし、其の事業の遂行に対する国家的期待の下に規定されたものと言ふべきであって、ここにも金融組合事業の公益性と一つの国家的機関としての存在を物語るものがあると共に、国家総力体制の發揮が、刻下喫緊の要務とせらるるときに当たり、金融組合の全国的な組織は真に重要性を帯びて来たと言ふべきである」(23)。このように、朝鮮に於ける組合運動は殖産契・金融組合・朝鮮金融組合連合会が設立されることによって、優れた組織形態を整備すると同時に、各村落地域に殖産契の設置は、全部落を国家体制に組み込むことを意味したのである。さらに、殖産契に入れば必ず上級機関である金融組合に強制的に入らなければならないことを義務付けられていた。そして、日本資本主義が、国家機関である金融組合にかける期待は大変大きい、ということである。実に金融組合の在り方を明快に語っていると思われる。

22) 富永文一「皇道精神を伴って大業を扶翼し奉らん(『金融組合』1月号、1944年) P. 3-4.

23) 『金融組合発達史の特異性』(前掲) P. 37.

これに対して、産業組合の場合は、実に倣々たるもので、その数においても、資金貸付の面においても金融組合とは比較にならない程零細であったので、産業組合に所属していた殖産契は業務推進が難しくなる場合が度々あったし、その存在価値が段々薄れていったのである。

従って、販売・購買事業は金融組合に所属している殖産契が主として担っていた。金融組合連合会事業も殖産契を設立してから活気が溢れていたし、殖産契の拡大と共に発展していったのである。朝鮮金融組合連合会は朝鮮総督府と密着していたので、朝鮮金融組合連合会は総督府の指示命令を金融組合に伝えると、金融組合は殖産契に伝える仕組みになっていた。また、逆に末端農民の状況については、殖産契が金融組合に報告して金融組合連合会を通じて総督府まで報告されるシステムになっていたのである。従って、総督府としても殖産契を設置することにより、末端農民の実体を素早く報告を受けて、それに対して早速対応することが出来た。そういう意味においては、殖産契を設置してからは農民統治が前より、はるかに行ないやすくなったのは事実である。つまり、総督府は殖産契を設置してから朝鮮統治を有利に導き、大変利点が多かったのである。それを狙っての設立であった。

次に、殖産契事業の進展状況を見ることにしよう。

1) 殖産契の事業内容

表2 殖産契事業進展状況(毎年6月末=契年度末現在) 単位千円・年度末

	設置組合	購買高	販売高	借入高	預け金	共同事業を占める額
1936	金融組合	692	472	434	15	?
	産業組合	19	13	24		
1937	金融組合	2,313	4,821	1,534	57	571
	産業組合	74	67	36		
1938	金融組合	5,365	13,554	3,034	131	899
	産業組合	273	245	164		
1939	金融組合	11,745	8,782	6,211	307	2,409
	産業組合	316	124	181		
1940	金融組合	13,344	48,233	5,868	796	5,385
	産業組合	895	591	133		
1941	金融組合	14,304	49,093	10,167	1,724	14,186
	産業組合	1,058	428	105		
1942	金融組合	18,012	63,194	16,476	2,023	?
	産業組合	146	17	106		
1943	金融組合	36,187	427,799	23,118	3,693	?
	産業組合	63	16	74		
1944	金融組合	14,152	149,194	20,824	13,147	?
	産業組合	1	6	107		

出所：『朝鮮金融組合連合会十年史』（1944年）PP. 64-65による。

注：共同事業（共同施設）というのは、玄米調製施設・共済事業・穀物調製・共同耕作・共同飼育場・共同作業場・共同倉庫・農機具等である。

表 2 に見るように、購買・販売共に全体的に増加している。しかし、産業組合に所属している販売・購買事業は実に微々たるものであった。日本帝国主義の末期に近づくにつれて、産業組合の営業不振に伴い、そこに所属していた殖産契の販売・購買実績もほとんど消滅した。

ところが、このような殖産契の販売・購買事業は常に金融組合の指導の下で行なわれていた。金融組合連合会も、販売・購買事業を行なっていたが、それは朝鮮金融組合協会の事業を引受て、事業課を以て主管課として業務領域を拡大していたのである。その後殖産契の設立が、朝鮮金融組合購買事業に画期的な刺激を与えて、1936年4月に朝鮮金融組合連合会は事業課を拡張して事業部として改称し業務を段々拡大した(24)。こうして殖産契は金融組合連合会を上層部機関として、販売・購買についての斡旋指導を受けていた。殖産契令の施行に当たって発せられた政務総監の通牒には「殖産契ノ設立ヲ機トシ、朝鮮金融組合連合会ヲシテ其ノ會員ガ關與スル共同購入及共同販賣關係ノ事業ヲ統制セシメ、其ノ効果ヲ一層擧揚セシムルコトニシタルニ付、新設殖産契ニ於テモ右統制ニ背反スルコトナキヤウ充分指導ヲ加フルコト」(25)とある。要するに金融組合連合会が殖産契の販売・購買に統制を行ない指導を加える、ということである。さらに、財務局長の通牒に「組合ノ殖産契及組合員ノ為ニ斡旋スル共同購入及共同販賣ハ連合会支部ニ斡旋ノ申込ヲ為スヲ原則トスルコト」(26)。とあるように、殖産契の共同販売・共同購買の場合は、金融組合連合会の支部に斡旋の申込をすることを原則とすることとされた。

いずれにしても、中央に金融組合連合会があり、その下に1938年現在七百十九の金融組合が会員として包容され、この単位組合が殖産契を組み込みつつ朝鮮全土にわたり網の目のように業務の拡張を図っていた(27)。こうして、金融組合の組織は、金融組合連合会・金融組合・殖産契の一貫した巨大な機構を持ち、金融、共同購買、共同販売、あるいは共済等の各事業を

24) 『朝鮮金融組合十年史』(前掲)P. 108.

25) 上掲書P. 107.

26) 上掲書PP. 107-108.

27) 『事変下金融組合記念日を迎えて』(『金融組合』7月号, 1938年)P. 91.

行なっていた。そして、前述したように、全朝鮮部落で集めた生産物を配給する集荷配給の網として動いていた殖産契を通じて物資の流通の合理化が図られたのであり、これによって、都市と農村の連絡網が一層緊密化され、戦時経済の方向に沿って進んでいたのである。

『朝鮮金融組合連合会十年史』は、このように述べている。

「昭和12年7月支那事变勃発以来経済統制と漸次強化せられたが、殊に昭和16年12月大東亞戦争に発展拡大するや全経済機構は全く決戦体制に移行し一切の生産力は戦争目的のために総動員せられるを要するに至り本会購販事業亦至大なる影響を受けたのであって、本事業の指導理念亦当然に変容したのである。斯くて本会は農業団体として戦時下国家の要請に即応するを旨とし、販売事業に於ては総督府樹立の食糧対策要綱に従ひ農産物の免荷供出に系統機関の全機能を挙げて参画し以て戦時化食糧国策の遂行に重要な役割を果たしてあるのである」(28)。1937年中戦争勃発によって事実上日本資本主義は戦時統制時代に入り、1941年の対米英開戦以降には経済の全機構が戦争目的を遂行するために動員されていた、ということである。朝鮮金融組合においても、生産事業・販売事業・購買事業・食糧増産・農産物供出事業等、すべてが戦争目的を遂行するためのものと化した。朝鮮農民も戦時体制に組み込まれて利用されていたのである。又、農産物免荷供出に系統機関の全機能を挙げた、と言うが、これには殖産契を大いに利用したに違いない。

V. 殖産契と食糧供出

日本資本主義は、1938年5月4日国家総動員法を公布して本格的に戦時統制時代に入り、国防目的を達成するために国力を最も効率的に運用出来るように国家が人的・物的資源をほとんど全て統制して運用するようになった。この動員法には、国家が緊急な時は手段と方法を選ばずにほとんど何でも出来るように規定されている。

28) 『朝鮮金融組合連合会十年史』(前掲) P. 109参照。

そして、この国家総動員法令を根拠にして、朝鮮総督府は1939年9月には「朝鮮米穀株式会社令」を公布し（諸令第15号）(29)、これによって朝鮮農民の食糧供出が開始されたのである。米穀供出量は朝鮮総督府で決めていたが、総督府で決めた割り当て量は各道に割り当てられ、道知事は郡・邑・面に再割り当てし、郡首・邑長・面長の責任下で年間自家消費量を除いて全割り当量を供出したのである(30)。このように、日本資本主義の戦争遂行に必要な米の供出のために、各農民は割り当量を供出してからは、家族が食べていく食糧が絶対的不足すると、山野に入って草木を食べて命を辛うじて延命するしかなかったのである(31)又、「食糧管理令施行規則」第3条第4条によると、生産者と地主は、供出割り当量については邑長・面長の命令に従わなければならないし、総督府が定めた割り当全量を供出する前は米を農民が自由に販売することを許さなかったことは言うまでもなかった。つまり、農民が1年間食べる食糧が絶対不足しても当局から割り当量を供出しなければ許さなかったのである。日本資本主義の「聖戦」完遂のためには、朝鮮農民は飢死しても止むを得ないという論理であった。これ程過酷で無責任な話はないのである。

又、『金融組合』は「供出の精神的解決」という題目で次のように述べている。少し長いけれども、ここに引用する。

「戦力増強の最も直裁なる現われ方は、食糧の増産と完全なる供出でなければならない。俗に腹がへっては戦が出来ぬ、と云ふが、前線へも、銃後へも食糧が行きわたらねば必勝の戦争は出来ない。戦ふ勇氣と体力も、軍艦を作り、飛行機を作る技術も、充分に食糧を得たとき培われる。このことを忘れてはならないのである。

このことも私は本誌で述べたが、半島農民諸君は、災害にも水害にも挫けることなく、戦ふ日本の穀倉である位置を充分に認識し、よく働いてゐる。けれども、まだ農民の戦いとるべき余地が、あらゆる角度から見て残されているし、供出の点で遺憾がないとは云へないのである

29) 『金融組合』8月号、(1938年) P. 13.

30) 権丙卓『韓国経済史』(博英社1984年) P. 424.

31) (上掲書) P. 427参照.

。農村には、働くと共に、収穫したものを完全に供出するといふ大切な任務が課されている。以前は、勤勉であり、収穫を多くするならば農民の仕事を果たしたことになったが、今日では、あらゆる部門において、その勤勞によって得たものが戦力強化に具現されねばならないやうに農の面にあつても、供出が完全に行なわれなければ、収穫の多いことがそのままお国御奉公になったのだとは云へない。ここに「公」だけがあつて一切の「私」はないのである。しかるに嚴重な配給による白米すら偏在するところがあるとしたら、農民道が直ちに皇国臣民道に結びついてゐるのだとはいへない」(32)。要するに、食糧を増産して完全供出しなければならぬ。そして、最前線に食糧を送らなければ戦いには勝てないし、軍人の士気の問題とか、あるいは軍艦を作るようなことがあつても、飛行機を作るような技術があつても、まず、食糧を獲得してこそ培養される、ということである。戦争に勝つために、どれだけ食糧を必要とされていたかが露呈されている感じである。そして、この戦いに勝つために、どれ程朝鮮農民に強いられていたかも示されている。さらに、肝心なことは、朝鮮半島の農民諸君は、日本の穀倉地帯である位置を十分に認識することが大事である、ということである。なるほど朝鮮半島は、日本帝国主義が「聖戦遂行」を展開するに伴つて必要な穀倉地帯の位置にある、という認識が最も大事である、ということであるから驚きを禁じえない。そして、日本人は前述したような認識をしっかりと持っているけれども、朝鮮半島の人々は、このような認識が足りないと言いつつながら、もっと供出しなければならぬと呼び掛けている。

では、金融組合は食糧供出運動にどのように関わつていたのであろうか。金融組合及び殖産契は朝鮮農村地域で大いに活躍した組織であるだけに、日本資本主義の戦争遂行に必要な供出を行なうのに大変協力的であつたし、幅広く活躍してゐたのである。多分、供出運動を展開するに当たつて金融組合が最も先頭立つて戦つたと思われる。

金融組合の全羅南道支部長、秦晴喜氏はこのように証言している「農民一人一人の生産量を克明に調査し、その家族数に応じ自家食糧を天引きして供出量を規定監視員送つける水も洩らさぬが如き机上理想案が幾多の悲喜劇を生んで怨嗟の聲と共に越中樞に終わった事例もある。

32) 植田敏郎「供出の精神的解決」(『金融組合』1月号、1944年)PP. 46-47.

食糧供出は毛を護みて貌を失う蠶者の真似をせず、殖産契単位に供出量を協定して同甘共苦の下に自然的共励牽制に協同自助の真価を発揮して見たい」(33)。要するに、朝鮮農民一人一人米の生産量を詳しく調査して家族数に応じて食糧を天引きして供出したことになる。つまり、農民一人一人米穀生産量は総督府以下、金融組合が細かく把握していた。同じ全南支部の庶務部長、鈴木伊勢治は1943年1月に次のように語っている「本米穀年度に於ける糧穀の供出は指導者も供出者も、共に其の心魂を傾け総力を凝集して殉国供出の真価を発揮し、大東亜戦下重要食糧自給体制の確立に遺算なきを期するに在った。米穀減収に伴う給源の減少にも拘らず供出計画は之を相対的に逡減せしむるを許さず、必然その確保は相当の難関があり、それがため奨励金の先高制廃止と部落単位の共同出荷が基本的措置として具体化し早期蒐荷を全面的に実施するに至った事は周知の如くである。乏しきを憂ふるにも増して、その等しからざる供出憂ふる当局の親心に対応して、組合系統組織は即刻動員せられ、殖産契亦連盟機構と一体不可離の関係に於て蒐荷を担当し契員相率ひて隣保共助の供出報国を展開したのである。組合員の惜しみなき努力と国策順応の心構えに感謝の一寸深きものがあり組合は部落共同出荷に、割當供出量の完遂に敢闘の姿は近来なき快心の一事である」(34)。

本来糧穀供出は、指導者も供出者も総力を結集して、殉国供出の真価を発揮する、とあるがまさに、供出がどれだけ厳しいかたを物語っている。逆に言えば、このような供出によって朝鮮農民の食糧をどれだけ残酷に収奪していかかが明確に示されている。指導者も供出者も日本帝国のために殉死する覚悟で供出に当たっていたことが露呈されている。その次に見逃すことの出来ない肝心なことは、要するに、米穀減収に伴う給源の減少にも拘らず供出計画は、これを相対的に逡減することを許さなかった、ということである。これは非常に大事な問題点で露きを禁じえない歴史的な事実である。というのは、農事が毎年豊作になるとは限らないし凶作になる場合もあるはずである。それを例え、凶作であっても、定められた供出量は必ず供出

33) 秦精吾「組合と食糧供出」(『金融組合』2月号、1943年)P. 40.

34) 鈴木伊勢治「庶務部長」(『金融組合』1月号、1943年)PP. 40-41.

しなければならぬ、という致命であった。それこそ朝鮮農民の食糧が絶対不足しても、決められた供出量は厳守せざるを得ない残酷な歴史的な事実を見るような感じがする。そして、組合と殖産契は隣保共助の供出報国を展開して、割り当て供出量の達成に敢闘したのである。さらに、江西組合の松永守はこのように述べている。「金融組合は戦時下喫緊の要務たる糧食の供出に一役を買って居るのであるが、決戦体制下糧食の供出に一役、つきものの天引き貯金の吸収で二役の御奉公と思えば敢えて辛酸を啣つきにも當るまい」(35)。このような金融組合は、戦時下の食糧供出の大事な任務を果たしていたし、又、天引き貯蓄の役割も果たしていたのである。

さらに慶尚北道支部長、松村耕作は次のように述べている。「我が国必勝体制の根幹を為すものは謂ふ迄もなく国民の食糧問題の解決策であり、朝野を挙げて真剣に其の対策に腐心させれつつある。我が半島の負荷する使命の如何に重大なるかは誰しも齊しく認むる所で我が国食糧政策の成否の鍵を握るといふも過言ではない。而も本道に於ては此の供出をして円滑に且つ簡易化せしめ得べき方途につき思を凝し昨秋より積極的に殖産契の活動を促進せしめ供出に拍車をかけている。現に道内に於て有数なる米産地たる永川郡の如き全面的に殖産契単位に供出せしめつつあって、その成績も極めて順調に進み目標額も既に達成せられてゐる。現在組合の進むべき道は農産物の増産と是等の円滑なる供出を図るにある」(36)。要するに、朝鮮半島に与えられた重大な使命は、食糧増産であり、朝鮮半島の食糧如何によっては、日本資本主義の食糧政策成否の鍵を握っていると言っても過言ではない、ということである。又、殖産契の活動を積極的に促進せしめて供出に大きな成果をあげたのである。永川郡の場合、ほとんど殖産契単位で供出して、極めて供出が順調に運び見事に目標達成した例をあげている。このように、殖産契は朝鮮農村の細胞組織として位置していて、この殖産契という細胞網を通じて食糧供出をどんどん成功させていたのである。戦時下で農村隅々に存在していた殖産契の存在意義は大きいと言えよう。

35) 松永守「江西組合」(「金融組合」1月号, 1943年) P. 41.

36) 松村耕作「金融組合」1月号, (1943年) P. 42.

論山組合の、兒島敏輔氏もまたこのように語っている。「糧食の中で糧穀供出に就いては大いに貢献したと思う。一昨年麥の供出は組合が主としてやった。殖産契を動員して完了した当時、既に殖産契網は全部落に普及組合員にして手網を引けば競ひ立って活動する域に迄達していたが其處に関係機関の協力もあって悠々と目的を達成したのだ。此時程共同の力の偉大さに感を深くしたことはない。糧食の国内自給自足が決戦下の重要国策となった現在之れを生産し供出するのは勿論農村であるが之が金融を通じ生産増強に拍車をかけるのは組合の力が大いにあると思ふ。組合員としても国策に協力し得る職場に働く事が出来るのは誠に有り難いのだ。しかして供出に参加するのは生産増強に全きを得せしめんとする組合の当然の途だとも言える。現在全鮮の糧穀の供出事業が円滑に運行されるのは組合の参加が預かって力があると思ふ。されば組合員は大いに責任を感じる」(37)とある。

このように、日本資本主義の戦争遂行に必要な糧穀を供出するには、ほとんど殖産契と金融組合が役割を分担して行なつたと言えよう。殖産契と金融組合は、その時代の朝鮮農村の中心的な存在として国策遂行に最大の協力者として君臨していたのである。

長興組合の平井泉は1943年1月にこのように述べている。「半島は大陸兵站基地であるばかりでなく今や大東亜兵站基地としてクローズアップされつつあるが吾々組合人も又新たな使命が加重された。しかしながら吾食糧増産の指導に、供出の督励に当たった場合考えさせられる事が多いようである。先ず米麥其の他必要な食糧を絶対確保するには従来計画生産より更に一步を進めて命令生産を断行すべきだと思ふ。要するに農民は国家の命令によって生産した物を全量供出し、食糧は配給を受け、小作料は金納にすれば好いと思ふ。

畏くも新年の宮中御歌會始の勅題を「農村新年」と拝し吾々農村人は恐感奮を禁じ得ないであるが、更に政府の新農林政策の根本も「皇国農村の確立」に置かれて居る。農村の使命が、農民の債務が今日程重大なる時は無いのであって吾々組合人も又働き甲斐を感ずる」(38)。

37) 兒島敏輔「論山組合」(『金融組合』1月号、1943年)P. 44.

38) 平井泉「長興組合」(『金融組合』1月号、1943年)P. 45.

要するに、朝鮮半島は大陸兵站基地であるだけでなく、大東亜兵站基地として浮上されつつあるのでわれわれ組合員にも新たな使命が与えられた、ということである。組合にとっては食糧増産の指導に臨み、供出督励に平氣に当たっていたけれども、朝鮮農民側にとっては命を削られるような苦痛であった。金融組合がこのような役割を行なったことは、朝鮮農民から怨念を買う役割であったと思われる。又、必要な食糧を絶対確保するためには従来の計画生産より更に一步進めて命令生産を断行すべきだと言っている。つまり、必要な食糧を絶対的に確保するためには、命令を受けた生産量は無理をしても必ず達成すべきである、ということであるから、まさに朝鮮農民の血を吸い取るような考えであった。否、考えだけではなく實際的この通り実行したと言っても過言ではないだろう。さらに、農民は国家の命令によって生産した物を全量供出し、食糧は配給を受け、小作料は金納にすれば好い、ということも言っている。これ程危険で残酷な考えはないのである。つまり、農民は国家の命令によって生産した米穀を全部供出して、食糧は配給を受けるが好い、ということであるが、このようなことは全く道理に違反する考えである。生産されたものを全部供出して配給を受けると言っても時代は戦時中である。米穀が常に不足する最中で配給を受けると言っても真面目に信用できるはずがないのである。従って、こういう考え方は組合員の責任者として日帝の戦争目的さえ達成出来れば、朝鮮農民の生活等は眼中にもなかったことを物語るののである。

最後に西井里組合理事、金山是清の言葉を引用しよう。「大東亜戦下国民の食糧確保は聖戦完遂上絶対的要件であることは再論の要せざる所にして内外地の食糧需給調整、軍需の充足、国民生活の安定は我が国の食糧対策三大目標である。今後食糧供出は必ず組合人の手によってのみ為遂げると言ふ気魄と悲壮なる決意の下に殖産契の共同出荷を必行すべきである。殖産契の幹部をして本運動の精神並び戦時下に対処する殖産契の使命を充分理解せしめ割当られた数量は幾多の悪条件を克服し必ず供出する」(39)とある。前述したように、ここでも大東亜戦争を成功させるために食糧確保は絶対必要な事項である、ということが述べられている。そして、今後の食糧供出は組合人の手によって悲壮なる気魄を以て行なうべきであると主張している。

39) 金山是清「西井組合」(『金融組合』1月号、1943年)P. 46.

VI. 結 論

以上、当時金融組合に携わっていた幹部等の主張に基づいて供出について分析して見た。結論的に日本帝国主義の朝鮮統治者等は、金融組合及び殖産契は朝鮮農民の生活改善のために存在すると宣伝してきたが、このような状況を見る限り、これらは朝鮮農民の血と命を吸い取るような悪名高い強圧的な食糧供出のために先頭に立って指揮を取っていたのである。命令に従って行なったとは言え、これ程矛盾した出来事はないのである。

日本資本主義は1931年満州事変起こした以降、朝鮮をして大陸前進兵站基地として、その重要性を認識して、あらゆる策略を行なってきたが、すべての対植民地経済政策は、植民地を兵站基地として効率的に使用するために、その役割を遂行する所に焦点を合わせていたと言っても過言ではないと言えよう。従って、彼らにとって朝鮮開発という用語を盛んに使ったのは、朝鮮をして大陸前進兵站基地として十二分活用するためであったのである。殖産契は農産物集荷配給の役割を果たす事業機関として、その組織網を活用して、戦時経済の動きに順応して軍需物資の集荷・運送に大事な一役を担ったのである。

こうして殖産契は金融組合の細胞組織として末端零細農民を部落単位で組織して、日帝の国策路線に組み込み入れることを可能にした。そして、日本資本主義は農村の細胞組織として殖産契を巧みに組織することによって、朝鮮農村の末端農民まで掌握するのに成功したと言えよう。

要 約

當時 朝鮮에 있어서의 金融組合運動은 농민통치 수단으로서 朝鮮金融組合連合會·金融組合·殖産契가 設立됨에 따라서 훌륭한 組織形態를 整備함과 同時에 各 村落地域에 殖産契令에 의해서 殖産契를 設置하였다는 것은 전부락을 國家體制에 편입시킴을 意味하였다. 그리하여 金融組合 및 殖産契는 日本帝國主義의 國策遂行에 여념이 없었던 것이다.

그리고, 殖産契를 朝鮮의 거의 전부락에 設置함으로써 全國에 걸친 物資流通機構가 확립되었던 것이다. 말하자면, 전국적인 集荷配給組織網을 確立하게 되었던 것이다.

그리고, 한편으로는 金融組合 및 殖産契는 全朝鮮農村에서 國策遂行을 이행함과 동시에 朝鮮에서 兵站基地의 任務도 수행해 가기 위해서는 集荷配給組織을 신속하게 構築하고 殖産契가 發展함에 따라서 朝鮮農村僻地에서 展開되는 小作爭議라든가 反日·反帝를 외치는 농민들을 봉쇄하는 役割까지 수행하였다. 또한 殖産契라는 세포조직을 설립하여 도시와 농촌을 연결하는 集荷配給組織網을 구축함으로써 戰時體制에 있어서 物資輸送手段을 圓滑하게 할 수 있는 태세를 갖추게 되었던 것이다.

이와 같이 朝鮮農村지역에서 金融組合의 細胞組織을 구축한다는 意味에서 殖産契는 매우 重要한 意味를 가지고 있었다. 이와 같은 細胞組織이 상호협력함으로써 큰 힘을 發揮하게 되었던 것이다. 말하자면, 日帝가 國策수행을 효율적으로 추진하고 그 成果를 올리기 위해서는 朝鮮農村의 최말단의 농민들까지 장악하지 않으면 안되었던 것이다.